

第20回 鹿児島県 地域年金事業運営調整会議

【資料2】

令和5年7月21日



日本年金機構

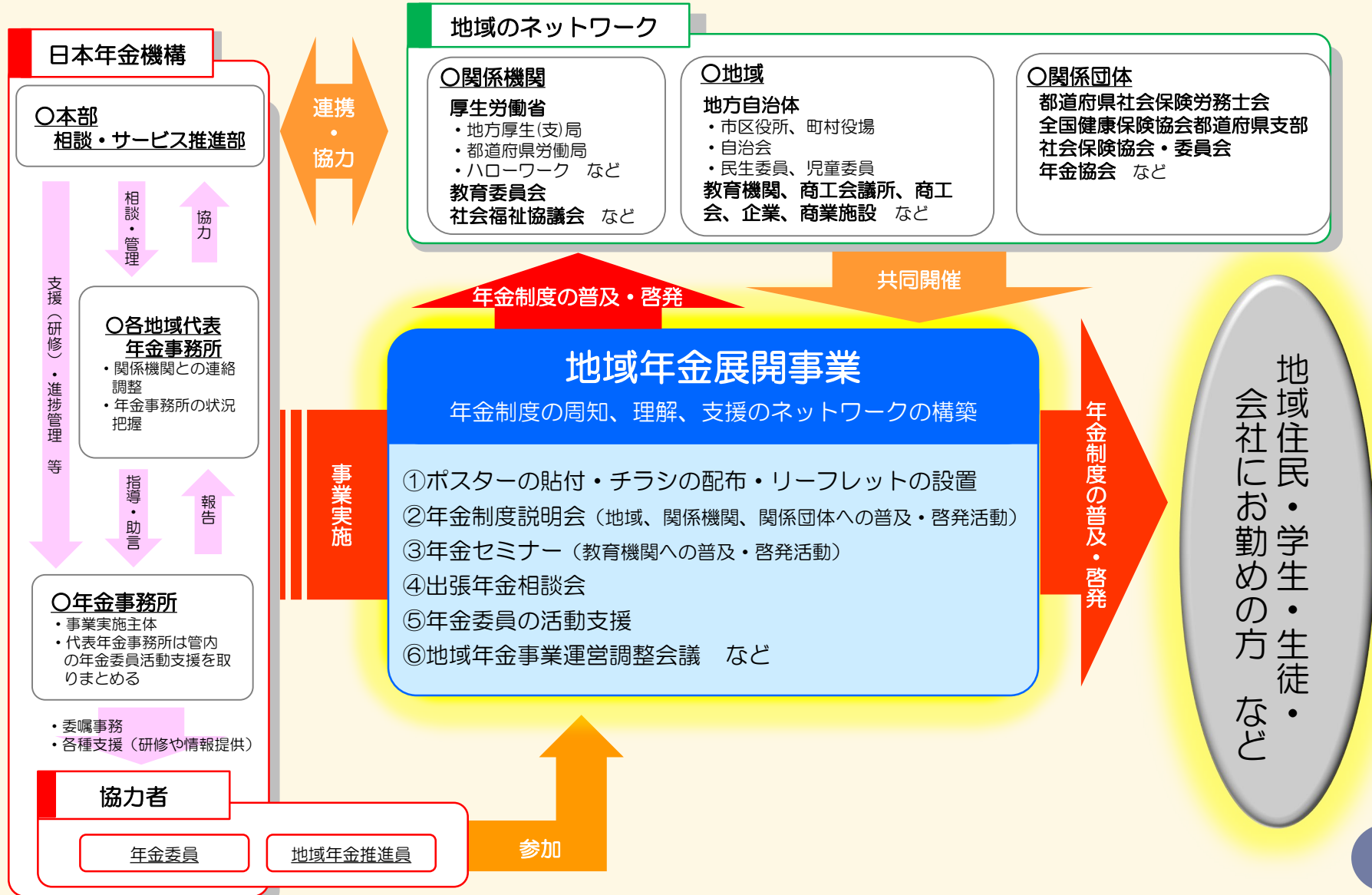
Japan Pension Service

目次

- | | |
|---------------------------------|-------|
| 1. 地域年金展開事業の概要 | 1～3 |
| 2. 令和4年度事業実施結果報告（令和4年4月～令和5年3月） | 4～24 |
| 3. 令和5年度事業計画 | 25～31 |

1. 地域年金展開事業の概要

地域年金展開事業の概要



地域年金展開事業の主な取り組み

- 公的年金制度の普及・啓発や国民年金保険料収納率の向上等のため、関係機関との連携協力のもと、「年金制度説明会」や「年金セミナー」「出張年金相談」等を実施します。
- また、日本年金機構が取り組む公的年金制度の普及・啓発活動について、都道府県ごとに関係者や有識者からなる「地域年金事業運営調整会議」を開催し、事業推進の意見や助言を伺います。

地域連携事業

- 職員が自治体や民間企業、関係機関、関係団体等に対し、オンラインまたは対面により、事務担当者や従業員・所属員・加入員向けの年金制度説明会を実施。
- 市区役所・町村役場の広報誌や行事等を通じ、年金制度や日本年金機構が行う事業の周知、ポスター・チラシの掲示や設置、配布の依頼等。

年金セミナー事業

- 年金事務所職員が高校、大学、専門学校等に対し、オンラインまたは対面により、生徒・学生向けの年金セミナーを実施。もしくは年金セミナー用動画（DVD）を配付。
- 大学での年金相談、学生納付特例制度の申請窓口の開設、パンフレットの設置、配布の依頼等。

地域相談事業

- 年金事務所から遠方の地域住民の利便性やニーズに合わせるため、市区役所・町村役場や大規模商業施設、イベント会場等で、出張年金相談や免除申請窓口を開設。

年金委員 活動支援事業

- 年金委員を対象とした研修会の開催や、各種冊子・チラシなど活動に役立つ情報を提供。

地域年金事業 運営調整会議

- 公的年金制度の普及・啓発などの検討や年金事務所が行う事業への意見・助言を行うため、学識経験者や関係機関の職員などを委員として都道府県単位で設置。

2. 令和4年度事業実施結果報告

(令和4年4月～令和5年3月)

○地域連携事業

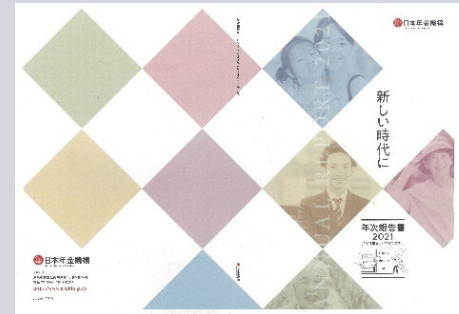
計画

実績

総括及び課題

- ① 市町村や官公庁に対し、窓口での年金制度に関するポスターの掲示及びリーフレットの設置等を依頼し、地域住民への情報提供の充実を図る。
- ② 市町村広報誌等を活用し、年金制度や出張相談にかかる周知を行う。
- ③ 市町村職員への研修、説明会を定期的に実施する。

- ① 市町村や官公庁に対し、年金相談の予約に関するポスターの掲示及びリーフレットの設置等を依頼し、地域住民への周知広報を実施した。
また、市町村や年金委員に日本年金機構アニュアルレポートを送付し、事業運営の状況や目標の達成状況について情報提供を行った。
- ② 市町村広報誌へ出張相談の日程などの年金に関する記事を提供し、地域住民への広報を行った。
- ③ 市町村職員への研修を以下のとおり実施した。



市町村・官公庁

事務所	実施月	対象市町村	参加者数	開催方法
鹿児島南	R4.6	指宿市、枕崎市、南さつま市、南九州市	14	対面
	R5.1	指宿市、枕崎市、南さつま市、南九州市	13	対面
鹿児島北	R4.8	阿久根市、出水市、いちき串木野市、志布志市、鹿児島市、西之表市、日置市、三島村、中種子町、南種子町、屋久島町、始良市、薩摩川内市、長島町、垂水市、十島村、霧島市	35	WEB
	R4.11	鹿児島市、西之表市、中種子町、三島村	5	対面
	R4.12	鹿児島市、日置市、南種子町、屋久島町、十島村	11	対面
川内	R4.8	出水市本庁、出水市野田支所、いちき串木野市	4	対面
	R4.9	出水市本庁、出水市高尾野町	4	対面
	R4.11	阿久根市	4	対面

計画

実績

総括及び課題

市町村・官公庁

事務所	実施月	対象市町村	参加者数	開催方法
加治木	R4.7	伊佐市、霧島市	16	対面
	R4.9	霧島市	20	対面
	R4.12	霧島市、伊佐市、始良市	5	対面
	R5.1	霧島市	2	対面
	R5.2	霧島市、始良市	4	対面
鹿屋	R4.5	垂水市、曾於市（大隅支所・未吉支所）、肝付町、東串良町、大崎町、志布志市、錦江町、南大隅町、大崎町	30	対面
	R4.6	東串良町	3	対面
	R4.7	東串良町	1	対面
	R4.9	志布志市	5	対面
	R5.2	錦江町、志布志市	8	対面
奄美大島	R4.5	奄美市、宇検村、龍郷町、徳之島町、天城町、知名町、与論町	11	対面
	R4.7	徳之島町、天城町、伊仙町	3	対面
	R4.11	奄美市、宇検村、喜界町、徳之島町、伊仙町、和泊町、知名町、与論町	11	対面
	R4.12	奄美市、瀬戸内町、龍郷町、天城町	5	対面
合計	37市町村	214		

九州厚生局との共催により、九州管内市町村職員への事務説明会を開催。機構のテレビ会議システムを活用し、博多から発信する方法で開催した。
 開催日：6月9日・15日
 テーマ：国民年金に係る免除事務等、年金給付（未支給年金等）
 国民年金・年金生活者支援給付金に係る交付金事務等
 資格取得時等における納付督促、申請免除該当者への案内状送付
 開催日：11月29日・12月8日
 テーマ：国民年金・年金生活者支援給付金に係る交付金事務
 国民年金に係る適用事務等、年金給付（障害年金）

- 市町村の担当者が、日頃の業務の中で難しいと感じていること、疑問に思っていることが少しでも解決できるよう、実践的な研修となるよう努める。
- 国民年金の適用・収納については、市町村との緊密な連携が不可欠であるためオンラインの活用を含め研修会や意見交換の機会の充実をさらに進めていく必要がある。

計画

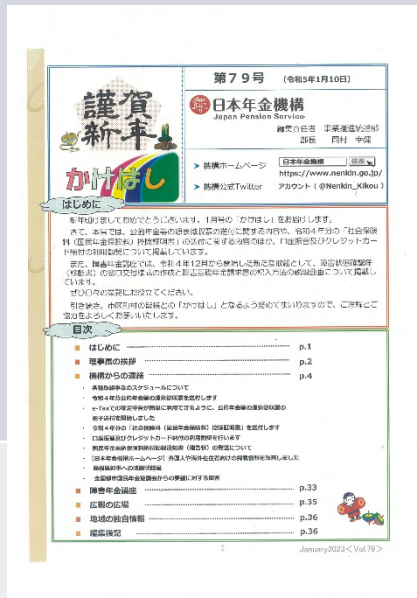
実績

総括及び課題

市町村・官公庁

④ 市町村担当職員向け情報誌を定期的に発行し、制度改正や事務処理上の留意点について情報提供を行う。

④ 市町村担当者向け情報誌「かけはし」を定期的に発行し、制度改正や事務処理上の留意点について、タイムリーな情報提供を行った。
送付時期：5月、7月、9月、11月、（奇数月に発行）
1月、3月



○ 情報提供を行うのみにとどまっているため、市町村担当職員からの意見・要望も取り込んでいきたい。

全国健康保険協会

① 定期的に連絡会議を開催し、情報共有を図る。

① 令和4年8月23日（火）
鹿児島地区行政等連絡協議会

② 機構及び全国健康保険協会の業務にかかる研修会を相互に実施する。

② 双方のスケジュール調整が整わなかったため開催できなかった。

③ 全国健康保険協会と共催で年金委員功労者表彰式を開催する。

③ 令和4年11月7日に年金委員功労者表彰式を開催した。
※ 詳しくはP21「ねんきん月間」及び「年金の日」における取り組みで報告

○ 厚生年金保険の適用に伴う保険証の発行や、健康保険の給付と年金の給付など、相互に関連する業務について理解を深めることは、お客様サービスの観点からも非常に重要であることから、引き続き連携強化を図る。

計画

実績

総括及び課題

社会保険労務士会

① 定期的に連絡会を開催するとともに、適宜情報提供を行う。

① 令和4年8月23日（火）
鹿児島地区行政等連絡協議会

実施日	場所	主な議題	参加数
4月26日	鹿児島県社会保険労務士会 会議室	SLAの状況等	3
5月24日	鹿児島県社会保険労務士会 会議室	SLAの状況等	2
6月15日	鹿児島県社会保険労務士会 会議室	SLAの状況等	3
7月26日	鹿児島県社会保険労務士会 会議室	SLAの状況等	3
8月24日	鹿児島県社会保険労務士会 会議室	SLAの状況等	2
9月21日	鹿児島県社会保険労務士会 会議室	SLAの状況等	2
10月25日	鹿児島県社会保険労務士会 会議室	SLAの状況等	2
11月29日	鹿児島県社会保険労務士会 会議室	SLAの状況等	2
12月22日	鹿児島県社会保険労務士会 会議室	SLAの状況等	2
1月24日	鹿児島県社会保険労務士会 会議室	SLAの状況等	3
2月21日	鹿児島県社会保険労務士会 会議室	SLAの状況等	2
3月15日	鹿児島県社会保険労務士会 会議室	SLAの状況等	3

② 会員に対する研修会を開催する。

② 研修会の開催 令和4年11月12日（土）
鹿児島国際交流センター
「65歳以降の在職定時改定と退職改定」
「法改正における繰下げ制度」について

○ 受給開始時期の選択肢の拡大や被用者保険の適用拡大などの大きな制度改正が実施され、機構の事業推進には社会保険労務士会との連携が不可欠であることから、さらに協力連携を進めていく。

* SLA：サービスレベルアグリーメント
年金相談窓口等の運営業務
サービス品質に関する合意

社会保険協会

① 社会保険協会発行の広報誌へ記事を掲載し、会員事業所への情報提供を行う。

① 奇数月に発行される社会保険協会発行の広報誌「社会保険かごしま」に記事を掲載し、情報提供を行った。
＜主な掲載記事＞
・電子申請の推進
・算定基礎届・賞与支払届提出の案内
・「わたしと年金」エッセイ募集
・ねんきんネットの利用促進
・被用者保険の適用拡大



○ 記事掲載による情報発信をさらに効果的なものとするため、より分かりやすく読みやすい記事となるよう工夫する。

計画

実績

総括及び課題

社会保険委員会

① 社会保険委員会主催の会議に出席し、年金制度の説明や事業への協力依頼を行う。

① 日本年金機構、全国健康保険協会、社会保険協会の四者で開催

事業	地区	場所	実施日	参加数
研修会	鹿児島北年金事務所	鹿児島サンロイヤルホテル	11月7日	136
	鹿児島南年金事務所	鹿児島サンロイヤルホテル	11月8日	188
	川内年金事務所	薩摩川内市国際交流センター	11月10日	117
	加治木年金事務所	加音ホール	11月18日	62
	鹿屋年金事務所	鹿屋市文化会館	11月24日	87
	奄美大島年金事務所	奄美振興会館	11月21日	68
	合計	6か所		658名

② 社会保険委員会連合会と共催で年金委員功労者表彰式を開催する。

② 令和4年11月7日に年金委員功労者表彰式を開催した。
※ 詳しくはP.22「ねんきん月間」及び「年金の日」における取り組みで報告



自治体・町内会等

① 地域住民への年金制度説明会を開催する。

事務所	日時	主な議題	参加数	実施方法
鹿児島南	6月10日	老齢年金について	90	対面
鹿屋	12月7日	老齢年金について	10	対面

○ 地域住民のニーズを的確につかみ、地域住民が容易に理解し、かつ役に立つような制度説明ができるように努める。

計画

実績

総括及び課題

企業・団体等

- ① 企業や団体の従業員に対し、年金制度説明会を開催する。

事務所	実施月(回数)	説明内容	参加者
鹿児島北	6月(3)・7月(7)・8月(1)・12月(1)	担当者向け制度・事務手続説明	45名
鹿児島南	4月(1)・6月(2)・11月(1) 1月(2)・2月(2)	担当者向け制度・事務手続説明	354名
川内	5月(1)・6月(1)・8月(5)・9月(5)・ 11月(4)・12月(1)・1月(2)・ 2月(1)・3月(1)	担当者向け制度・事務手続説明	122名
加治木	5月(2)・6月(4)・7月(1)・8月(1)・ 10月(1)・11月(1)・1月(1)・2月(1)	担当者向け制度・事務手続説明	34名
鹿屋	8月(3)・12月(1)	担当者向け制度・事務手続説明	17名
奄美大島	5月(2)・6月(5)・1月(2)・2月(1)	担当者向け制度・事務手続説明	24名
合計	67回		596名

- ② 企業や団体に年金に関する情報提供を行うとともに、関係者への周知を依頼する。

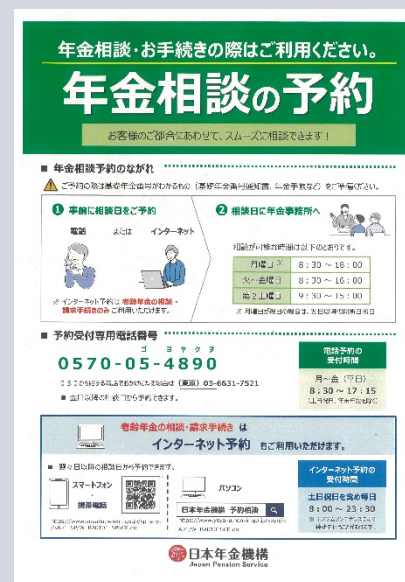
- ② 「年金相談の予約制」、「オンライン事業所年金サービス」の広報を行った。

マスメディア

- ① 「ねんきん月間」や「年金の日」等について、マスメディアを活用した広報を行う。

- ① 鹿児島県政記者クラブに対し、以下のとおりプレスリリースを行った。
 - ・6月29日 令和4年度「わたしと年金」エッセイ募集
 - ・10月26日 令和4年度「ねんきん月間」「年金の日」の取り組みについて

- オンラインによる制度説明会が可能であることを広く周知し、民間企業への制度説明会開催のアプローチをさらに進めていく。
- 今後も取り組みを継続するとともに、企業のニーズを的確につかみ、さらなる連携強化を図る。



- マスメディアを活用した周知広報は、まだ十分にできていない状況にある。今後は他の地域の取り組みも参考にしながら、有効な方策を検討する。

○年金セミナー等事業

開催に向けたアプローチ

計画	実績	総括及び課題
<p>① 年金セミナー等の実施に向け、教育関係機関への協力依頼を行う。</p> <p>② 中学校・高校・大学・専門学校等に対し、積極的なアプローチを行う。 また、高校へのアプローチを行う際は、地域年金推進員を積極的に活用する。</p>	<p>① 鹿児島県教育庁（高校教育課、義務教育課）へ年金セミナー開催及び「エッセイ」募集への協力依頼を行った。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での年金セミナー実施が困難な学校へ、年金セミナー動画(DVD)やオンラインによる年金セミナーの開催を行った。</p> <div data-bbox="629 776 1259 1219" data-label="Image"> </div>	<p>○ オンラインによる年金セミナーの開催を積極的に推進していく。</p> <p>○ 学校側のカリキュラムやニーズを十分把握するとともに、多様な年金セミナーが実施できることを積極的にアピールし、数あるセミナーの中から年金セミナーを選んでいただけるよう努める。</p> <p>○ 校長OBである地域年金推進員によるアプローチは非常に有効である。今後も連携を密にし取り組みを進めていく。</p>

計画

実績

総括及び課題

① 各学校の状況や要望に応じた年金セミナー等を開催する。

◎年金セミナーの開催実績は以下のとおり。

事務所	学校名	実施方法	実施日	参加者数
鹿児島北	鹿児島県立農業大学校	対面	4月13日	65
	鹿児島環境・情報専門学校	対面	4月13日	40
	鹿児島医療福祉専門学校 看護学科	対面	9月29日	57
	鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科	DVD	10月3日	17
	鹿児島医療技術専門学校 理学療法学科	DVD	10月3日	52
	今村学園ライセンスアカデミー 柔道整復トレーナー学科	DVD	10月7日	30
	鹿児島医療技術専門学校 言語聴覚療法学科	DVD	10月7日	23
	鹿児島医療技術専門学校 介護福祉学科	DVD	10月31日	3
	県立吹上高校	対面	11月16日	65
	赤塚学園美容・デザイン専門学校	対面	12月5日	25
	鹿児島国際大学	対面	12月12日	110
	久木田学園看護専門学校	対面	12月19日	19
	鹿児島高校	対面	12月22日	94
	鹿児島公務員専修学校	対面	1月19日	5
	鹿児島県美容専門学校	対面	2月8日	92
	鹿児島情報高校	対面	2月9日	319
	県立鹿児島東高校	対面	2月14日	38
	県立武岡台高校	DVD	2月28日	248
	鹿児島医療福祉専門学校 歯科衛生学科	対面	3月3日	20
	鹿児島中央看護専門学校	DVD	3月6日	49
	県立屋久島高校	DVD	3月7日	61
	鹿児島医療福祉専門学校 介護福祉学科	対面	3月14日	13

- 今後Web会議ツールを活用した年金セミナーが増加することを踏まえ、オンラインセミナーに適した資料の作成、操作方法の習得、伝わりやすい説明スキルの習得などについて検討していく。
- 相手方にオンラインセミナーのメリットが実感できるような工夫を重ねていくことが重要である。



計画

実績

総括及び課題

年金セミナー等の開催

事務所	学校名	実施方法	実施日	参加者数	
鹿児島南	鹿児島環境・情報専門学校	対面	4月13日	40	
	県立南薩養護学校	対面	10月26日	90	
	県立川辺高校	対面	2月7日	57	
	鳳凰高校	対面	2月20日	187	
	県立明桜館高校	対面	2月21日	160	
	鹿児島医療福祉専門学校	対面	3月3日	59	
川内	出水郡医師会准看護学校	D V D	9月	30	
	県立宮之城高等技術専門学校	D V D	10月12日	19	
	鹿児島障害職業能力開発校	対面	11月8日	51	
	出水郡医師会広域医療センター附属阿久根看護学校	オンライン	12月15日	35	
	県立鶴翔高校	対面	1月19日	69	
	県立串木野高校	対面	2月2日	38	
	県立薩摩中央高校	D V D	2月6日	41	
	県立野田女子高校	対面	2月8日	48	
	川内市医師会立川内看護専門学校	対面	2月13日	40	
	県立川薩清修館高校	D V D	2月14日	46	
	れいめい高校	D V D	2月14日	101	
	県立出水工業高校	対面	2月17日	66	
	加治木	鹿児島第一医療リハビリ専門学校	オンライン	8月19日	182
		県立蒲生高校	対面	2月7日	52
霧島市立国分中央高校		対面	2月10日	209	
県立隼人工業高校		対面	2月20日	113	
加治木看護専門学校		対面	2月21日	17	
県立大口高校		対面	2月24日	34	
県立牧之原養護学校		対面	3月1日	28	
県立加治木養護学校		対面	3月3日	3	



計画

実績

総括及び課題

年金セミナー等の開催

事務所	学校名	実施方法	実施日	参加者数
鹿屋	鹿屋体育大学	対面	7月28日	8
	鹿屋女子高校	対面	11月16日	5
	鹿屋看護専門学校	対面	12月8日	40
	県立曾於高校	対面	2月7日	150
	県立鹿屋農業高等学校	対面	2月15日	80
奄美大島	奄美看護福祉専門学校	オンライン	1月23日	41
	県立奄美高校（定時制）	対面	1月31日	29
	県立沖永良部高校	対面	2月2日	77
	県立奄美高校	対面	2月2日	116
	県立大島高校	対面	2月8日	126
	県立与論高校	対面	2月10日	34
	県立喜界高校	オンライン	2月14日	51
	県立古仁屋高校	対面	2月14日	31
樟南第二高校	対面	2月16日	88	

<内訳> 開催校数は学科が別の場合でも学校名で同一として計上

	開催校数	参加者数	オンライン	DVD	対面
高等学校	30	2,833	1	5	24
大学・短大	2	118	0	0	2
専門学校・各種学校	21	1,145	3	4	14
計	53	4,096	4	9	40

◎20歳到達者向けの国民年金制度説明会の開催実績は以下のとおり。

事務所	学校名	実施方法	実施日	参加者数
鹿児島北	志学館大学	対面	5月27日	82
	鹿児島県立農業大学校	対面	7月11日	24
加治木	第一幼児教育短期大学	対面	8月9日	77
奄美大島	奄美看護福祉専門学校	対面	4月25日	154



計画	実績	総括及び課題
<p>① 地域年金推進員を積極的に活用し、年金セミナー開催のアプローチを行う。</p>	<p>① 高等学校へアプローチ（鹿児島北・鹿児島南・川内管轄） ・訪問：58校（8月）</p>	<p>○ 年金セミナーの活性化のためには地域年金推進員の協力が極めて重要であるため、引き続き、連携を強化していく。なお、アプローチについては、事前の連絡を要する。 大隅半島は推進員の居住地から遠隔のため、アプローチが出来ていない。</p>
<p>② 地域年金推進員との連絡会議を開催し、意見交換・情報共有を行う。</p>	<p>② 高等学校あて年金セミナー意向調査文書のアドバイス 高等学校への年金セミナーアプローチの打合せ（8月実施）</p>	<p>○ 今後Web会議ツールを活用した年金セミナーが増加することを踏まえ、オンラインセミナーに適した資料の作成や操作方法の習得、伝わりやすい説明の仕方など地域年金推進員と連携していく。</p>

地域年金推進員

○地域相談事業

計画		実績					総括及び課題	
市町村	① 遠隔地の市町村において、定期的に出張年金相談を開催する。	① 各市町村における出張年金相談の開催状況は以下のとおり。 (令和4年4月～令和5年3月)					○ 感染防止対策を徹底したうえで実施することができた。 ○ 遠隔地にお住いの被保険者・受給者にとって、出張年金相談は極めて重要な相談の機会であり、多くのニーズもあることから、引き続き市町村や関係機関と連携しながら実施していく。	
		事務所	開催場所	開催月(頻度)	開催数	相談人数		
		鹿児島北	日置市	毎月	12	249		
			西之表市	毎月	12	222		
			南種子町	5・8・11・12月	4	66		
			中種子町	5・8・11・12月	4	54		
			屋久島町	6・9・12・3月	4	73		
		鹿児島南	枕崎市	5・6・7・9・10・11・1・2・3月	9	52		
			指宿市	4・6・7・8・10・11・12・2・3月	9	54		
			南九州市	4・5・6・8・9・10・12・1・2月	9	41		
			南さつま市	4・5・7・8・9・11・12・1・3月	9	69		
		川内	薩摩川内市	5・7月	2	8		
			いちき串木野市	5・8・11・2月	4	29		
			阿久根市	5・7・9・11・12・1・2・3月	8	64		
			出水市	毎月	12	229		
			さつま町	4・6・8・10・12・2月	6	43		
			長島町	4・6・8・10・12・2月	6	42		

計画

実績

総括及び課題

市町村

事務所	開催場所	開催月（頻度）	開催数	相談人数
加治木	伊佐市	毎月	12	191
	湧水町	4・6・8・10・12・2月	6	29
鹿屋	曾於市	毎月	12	53
	志布志市	毎月	12	110
奄美大島	喜界町	6・1月	2	24
	徳之島町	4・6・8・10・12・2月	6	47
	天城町	7・3月	2	27
	伊仙町	5・9月	2	20
	和泊町	3月	1	8
	知名町	8月	1	4
	与論町	5・11月	2	25
合計	26市町		146回	1,833名

計画	実績	総括及び課題
----	----	--------

特別支援学校

① 特別支援学校に対し、障害年金制度にかかる制度説明会のアプローチを積極的に行う。

② 感染防止対策を徹底したうえで、特別支援学校での制度説明会の実施する。

① 開催依頼のあった特別支援学校においてのみの実施に留まった。

② 鹿児島南が、10/26に南薩養護学校、川内が2/28に串木野養護学校、3/1出水養護学校、加治木が3/1に牧之原養護学校、3/3加治木養護学校にて実施。

○ 特別支援学校の生徒は、将来、障害年金を受給する可能性が高く、保護者や教職員に対する制度説明は極めて重要であるとの認識から、重点的に取り組みを進める必要がある。

○ 保護者や教職員に対する制度説明は極めて重要であるとの認識から、更に取り組みを進めていく。

① ハローワークと協力し、求職者や失業者に対する年金制度説明会及び国民年金保険料免除申請にかかる相談会を開催する。

① ハローワークにおいて、定期的に求職者や失業者に対する年金制度説明会を開催した。あわせて、国民年金保険料免除申請にかかる相談会を開催した。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、資料の設置のみとなるなど、予定の回数及び内容での実施ができない場合が多くあった。

○ ハローワークでの説明会は、求職者や失業者からの免除申請書の獲得が効率的に行えることから、引き続き取り組んでいく。

ハローワーク

事務所	実施月	説明内容	参加者
鹿児島北	6・12月	社保加入要件、被扶養者の基準	27名
鹿児島南	10・11・12・1・2月	国民年金手続きの周知	144名
川内	9・10・12・1月	制度改正内容説明	35名
奄美大島	7・8・9・10・11・12・1・2・3月	国民年金説明	415名
合計			621名

○年金委員活動支援事業

計画

実績

総括及び課題

① 定期的な研修会・意見交換会を開催する。

事務所	年金委員	開催月	説明内容	参加者
鹿児島北	職域	8・11・2月	育休保険料免除、国年制度 老齢繰下げ（制度改正）	19
	地域	6・8・11・3月	老齢等給付、被扶養者	13
鹿児島南	職域	4・8・11・3月	事務手続きの説明	18
	地域	6・11・12・3月	老齢等給付、被扶養者	107
川内	職域	4・6・12月	事務手続きの説明	18
	地域	6・9・12・3月	年金制度改正等	29
加治木	職域	5・11月	事務手続きの説明	72
	地域	6・11月	老齢等給付、被扶養者	6
鹿屋	職域	4・5・7・9・10・11月	事務手続きの説明	177
	地域	9・11・3月	扶養届、電子申請、ねんきんネット	8
奄美大島	職域	4・6・10月	事務手続きの説明	34
	地域	6・9・11・3月	制度改正、国年制度等	16
合計		42回		517名

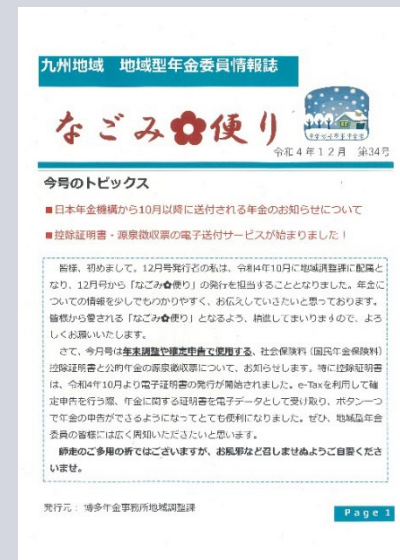
② 各種情報提供及び制度周知の協力依頼を適時行う。

② 新たな制度等に関するリーフレットを定期的に送付し、地域での周知・広報の協力依頼を行った。
また、年金委員活動の推進・サポートを目的に、都道府県単位の「地域型年金委員連絡会」及び年金事務所単位の「地区連絡会」をそれぞれ設置し研修を行った。

地域型年金委員に対しては、偶数月に情報誌「なごみ便り」を送付し、情報提供を行った。

○ 年金委員の活動は、職場や地域における制度周知・制度への理解に欠かせないことから、今後もしっかりとその活動をサポートする。

○ 地域型年金委員の組織的活動を活性化するため、都道府県単位の「地域型年金委員連絡会」をオンラインにて4回開催したが、音声の不具合などがあり、今後の課題となった。



計画

実績

総括及び課題

③ 年金委員の委嘱拡大に向け、事業所や関係機関に対しアプローチを行う。

③ 職域型年金委員数の推移（令和4年3月～令和5年3月）

○ 令和4年度は、被保険者が50名以上在籍する事業所を主に委嘱拡大を取り組んだ。

		R4.3末	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3
鹿児島南	現存数	527	527	531	548	548	549	549	549	549	551	572	575	576
	R4.3との比較	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	49
鹿児島北	現存数	343	345	346	346	348	352	351	354	355	355	355	360	366
	R4.3との比較	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23
川内	現存数	348	348	347	348	359	359	359	359	361	369	368	368	368
	R4.3との比較	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20
加治木	現存数	191	192	190	190	190	197	199	199	201	201	202	205	205
	R4.3との比較	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14
鹿屋	現存数	423	424	423	428	439	439	439	439	439	439	439	439	441
	R4.3との比較	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18
奄美大島	現存数	206	206	204	207	209	209	209	208	208	208	208	209	209
	R4.3との比較	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
計	現存数	2,038	2,042	2,041	2,067	2,093	2,105	2,106	2,108	2,113	2,123	2,144	2,156	2,165
	R4.3との比較	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	127

④ 年金委員功労者表彰式を開催する

④ 11月7日に開催した。
※詳細はP21「ねんきん月間」及び「年金の日」における取り組みに記載。

年金委員

計画

実績

総括及び課題

③ 年金委員の委嘱拡大に向け、事業所や関係機関に対しアプローチを行う。

③ 地域型年金委員数の推移（令和4年3月～令和5年3月）

○ 年金委員の属性やキャリアが様々であるため、年金委員に対する必要な支援として、定期的な研修や意見交換会等が必要である。

		R4.3末	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3
鹿児島南	現存数	175	174	170	175	176	176	176	176	176	199	179	177	177
	R4.3との比較	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
鹿児島北	現存数	44	46	46	46	46	46	46	46	44	44	44	45	47
	R4.3との比較	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
川内	現存数	24	24	24	25	25	25	25	25	25	24	23	23	23
	R4.3との比較	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	▲1
加治木	現存数	12	12	12	13	13	13	13	14	14	14	14	12	15
	R4.3との比較	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
鹿屋	現存数	9	9	9	10	10	10	10	10	11	11	11	11	11
	R4.3との比較	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
奄美大島	現存数	21	21	20	20	20	21	22	22	22	22	22	21	22
	R4.3との比較	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
計	現存数	285	286	281	289	290	291	292	293	292	314	293	289	295
	R4.3との比較	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10

年金委員

○ 「ねんきん月間」 及び 「年金の日」 における取り組み

計画	実績	総括及び課題
<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -40px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">年金委員表彰式</p> <p>① 年金委員功労者表彰伝達式を開催する。</p>	<p>① 令和4年11月7日 鹿児島サンロイヤルホテルにて開催新型コロナウイルス感染症対策を行い実施した。</p> <p>表彰伝達式は健康保険委員表彰伝達式と合同で行われ、鹿児島県社会保険委員会と鹿児島県社会保険協会の共催で行われた。</p> <p>年金委員の表彰者数 厚生労働大臣・・・2名 理事長表彰・・・1名 理事表彰・・・3名</p> <p>健康保険委員の表彰 理事長表彰・・・1名 鹿児島支部長表彰・・・4名</p>	<p>○ 感染拡大防止のため、関係者のみの表彰伝達式とした。</p>  <p>※写真の掲載については、ご本人の了承をいただいています。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -40px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">各拠点の取り組み</p> <p>① 各拠点において、公的年金制度を積極的にPRするための独自の取り組みを実施する。</p> 	<p>① 「年金の日」における出張相談所の開設 令和4年11月30日 イオン鹿児島鴨池店</p> <p>市町村、年金委員にポスター・リーフレットを送付し、「ねんきん月間」「年金の日」にかかる取り組みについての周知・広報の協力依頼を行った。</p>  	<p>○ 県内合同開催による商業施設での年金相談会やチラシ配布を行った。集客方法について、事前に鹿児島市の広報誌などでの周知が必要。</p> <p>○ 広く国民の皆様には年金制度を知っていただく大切な機会であることから、より工夫を凝らした取り組みを検討する。</p>

計画

実績

総括及び課題

① 「わたしと年金」エッセイ募集に係る広報・アプローチを積極的に行う。

① 関係機関に広報等行い、学校単位での募集はなかったものの、個人単位で高校生1名応募あり。

○ 地域年金推進員と積極的に連携し、夏休みの宿題等として、より多数の募集となるよう、入選作品集の送付など、引き続き広報活動に力を入れる。

○ 「わたしと年金」エッセイ入選作品集は、全世代に年金制度の大切さを知ってもらうための有効なツールとなることから、積極的に年金制度の周知広報活動に活用していく。

「わたしと年金」エッセイ

令和4年度入賞作品 厚生労働大臣賞 岐阜県 三井 蒼葉 様 (高校生)

私の父は、私が小学校を卒業する前に45歳という若さで亡くなりました。兄が1歳のときから精神の病気を患い入退院を繰り返していたことを母から聞きましたが、私は幼かったためほとんど記憶がありません。

私が覚えている父との思い出は、今思うと闘病しながらでも、家族のために限界まで働いてくれたし、体調が良いときには旅行にも連れて行ってくれました。春になると鮎釣りに出かけたり、雪が降れば一緒にスキーにも出かけたりしました。病気がありながらも、父親としてできる限りの愛情を注いでくれた父でした。そんな父でしたが、亡くなる前の5年間は徐々に症状が悪化していき、仕事も休みがちになっていました。闘病しながらでも父の支えがあったのは仕事だったと母が話してくれました。最後の5年間は、その仕事さえも続けていくのが難しくなり、経済的にも生活が大変になっていることを、小学生の私でも感じていました。

そんな中で母が障害年金の制度があることを知り、申請してみることにしました。障害年金とは、病気やケガなどで障害者になった際に受け取ることができる年金制度です。精神の病気の場合は、申請が通ることがとても難しいと母が話していましたが、父の症状を家族の立場から正確に伝えたと、医師の診断書に基づいて、障害年金3級を受給することができました。その頃は兄が高校へ入学したところで、学費を払うこともかなり大変な状況になっていました。

でも、父の病気はあまり良くなり、最後は難病も併発したことにより、生きるための食事ですらできなくなる状態にまで悪化してしまいました。母が話してくれましたが、父が嫌がったそうですが、食事ができないため入院することになりました。それが、父が亡くなる1ヶ月前のことです。

1ヶ月の入院は父にとつて辛い毎日だったと思います。そして何とかが食べられるようになって退院して間もなく、父は帰らぬ人となってしまいました。

遺された私達家族3人、絶望しかかったことを思い出します。深い深い悲しみと、近くにいないが父の気持ちに家族全員が気付けてあげられなかった後悔と、これからどうやって家族3人生きていけばいいのかという不安で胸が締めつけられ、今でもあの時の気持ちは言葉にすることができません。

父の葬儀では沢山の方がお参りに来てくれました。病気がありながらも最後まで家族を愛してくれ、私達のために全力で働いてくれた父だったからこそ、沢山の人から信頼され親しまれる存在だ

ったことを葬儀に来てくださった方々を見て感じました。突然にして父を亡くした私達は、今まで以上に経済的に大変なのは分かっていきます。母は何も言いませんでしたが、私と兄を抱えて不安でいっぱいだったと思います。そんな中で父の死後、遺族年金の申請をしてくださるお話をいただき、早急に手続きを手伝ってくれたそうです。その後遺族年金を受給できることになり、兄は高校を無事に卒業でき、京都の大学へ進学もできました。私も中学校では大好きな陸上を続けることができ、そして今年の春、陸上でインターハイに出場できるような選手になること、小さい時からの夢である助産師になるという2つの目標を達成するために、兄と同じ高校に入学することができました。

父が亡くなり、母1人の収入で私達兄妹を育てていくことは難しかったと母は言います。兄は今大学でジャーナリストを目指し猛勉強中です。私も毎日陸上と勉強の両立は大変ですが、目標があることで毎日充実した生活を送ることができています。

人はいつ病気になったり、障害者になるのかなんて誰にも分かりません。毎日ご飯をおいしく食べられること、部活や勉強ができること、学校へ通えること、友達と笑いあえること、家族がいること、仲間がいること、毎日当たり前を送っている生活全ては、本当は当たり前なんかではなく、本当は奇跡であることを、私は父の死を経験して初めて知りました。

今、私達家族が受給できている遺族年金は、父が闘病しながらでも働き続け、厚生年金を掛け続けてくれたおかげなのです。年金とは、高齢者になって当たり前には受給できるものではなく、20歳になったら年金に加入し、保険料を納めることで、高齢者だけでなく病気や障害者になったときに公的年金により生活を支えてくれる制度です。

少子高齢化が急速に進む日本においては、私達の近い未来でもある働く現役世代が公的年金制度の支えとなることを知りました。

国民の1人として、または障害年金や遺族年金によって助けられた1人として、まずは20歳になったら必ず年金に加入して保険料を納めることで、社会に恩返しをしたいと思います。父とはもう二度と会うことはできませんが、父が加入していた厚生年金の支えにより私達が生き延びていることで、今でも父の存在を感じる事ができています。

誰一人孤独にさせない社会を作るためにも、年金制度について正しく知ることは本当に大切なことだと思います。

世代を超える。
今だからこそ、伝えたい。

「わたしと年金」
エッセイ
募集中

賞
・厚生労働大臣賞
・日本年金機構理事長賞
・優秀賞
・入選


応募締切
令和4年9月9日(金)

詳しくは、日本年金機構ホームページをご覧ください。
www.nippon-kinou.or.jp

令和4年度 わたしと年金 検索

主催：日本年金機構 後援：厚生労働省 全国高等学校校長協会 文部科学省 全国都道府県教育委員会連合会

○地域年金事業運営調整会議

	計画	実績	総括及び課題
運営調整会議	<p>① 地域年金事業運営調整会議を年2回（6月・2月）開催し、取り組み状況を報告する。</p>	<p>① 令和4年6月、令和5年2月・・・開催</p> <p><主な議題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施結果報告 ・次年度事業計画(案) <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>※写真の掲載については、ご本人の了承をいただいています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 委員の皆様のご意見をしっかりと事業に反映できるような仕組みを構築していく。 ○ 今後、地域年金事業運営調整会議をはじめ各種会議や研修について、オンラインを活用した開催が可能となるよう機構本部と連携して取り組んでいく。
委員への情報提供	<p>① 地域年金事業運営調整会議委員に対し、年金制度や事業に関する情報提供を行う。</p>	<p>① 地域年金事業運営調整会議委員に、「ねんきん月間」や「年金の日」にかかるポスター・リーフレットを送付し、各種取り組みへの協力依頼を行った。</p>	
提言への対応	<p>① これまでいただいた会議における提言を取り組みに反映させる。</p>	<p>① いただいた主なご意見について、引き続き検討を進めより効果的な取り組みや新たな観点からの施策につなげていく。</p>	

3. 令和5年度事業計画

令和5年度 重点取り組み事項

年金制度を実務にする、即ち「無年金者、低年金者の発生を防止し、公平性を維持し、正確に給付する」ことが、日本年金機構に与えられたミッションです。

地域年金展開事業をより一層推進し、当機構に与えられたミッションを通じ、国民生活の安心を支え、お客様から信頼される組織となるよう、現場は国民のために努力します。

上記を達成するため、以下の4点を、鹿児島県の地域年金展開事業における「令和5年度重点取り組み事項」に位置づけます。

【令和5年度重点取り組み事項】

1. 市町村や関係機関との連携強化を図り、公的年金制度の周知・理解を促進する。
2. 年金セミナー、年金制度説明会等を促進し質の向上を図る。
3. 年金委員活動の活性化及びサポート体制の更なる強化を図るとともに、委嘱拡大を進める。
4. 個人向けオンラインサービス（ねんきんネット）の利用促進を図る。

(1) 市町村、自治会、事業所、関係機関との協力連携

市町村、自治会、事業所、関係機関等と協力連携し、公的年金制度の周知・広報の充実及び国民年金保険料の納付率向上を図る。

1. 関係機関・関係団体との連携による周知・啓発
 - ・市町村、ハローワーク、税務署等に、窓口での年金制度に関するポスターの掲示及びリーフレットの設置を依頼し、地域住民への情報提供の充実を図る。
 - ・関係機関の会議や研修会に参加し、年金制度や事業に関する情報提供を行う。
2. 市町村広報誌等による周知・啓発
 - ・市町村広報紙等を活用し、出張年金相談の日程や年金制度に関する情報提供を行う。
 - ・社会保険協会発行の広報誌に事務手続きに関する記事等を掲載する。
3. 年金制度説明会の開催
 - ・地域住民及び企業や団体の従業員を対象とした年金制度説明会を積極的に開催する。
 - ・開催にあたっては、オンラインやDVDを活用し、対面型と非対面型の両立を図る。
4. 関係機関・関係団体との連携強化
 - ・市町村担当者への研修や事務打合せ会を定期的で開催する。
 - ・市町村担当者向け情報誌「かけはし」を年6回（奇数月）送付し、情報提供を行う。
 - ・関係機関のニーズを十分聞き取り、効果的な情報提供・制度説明会を実施する。

(2) 地域における相談事業

地域住民のニーズに応えるとともに年金制度への理解を深めていただくため、自治体や教育機関、商業施設等に出向き、出張年金相談を実施する。

1. 市町村等における出張年金相談の実施
 - ・年金事務所から遠隔地の市町村に赴き、定期的に出張年金相談を開催する。
2. 社会福祉施設における障害年金制度説明会の開催
 - ・特別支援学校等に対し、障害年金制度に関する制度説明会開催のアプローチを積極的に行う。
 - ・特別支援学校等の教職員や保護者に対し、感染防止対策を徹底したうえで制度説明を実施する。
3. ハローワークでの雇用保険受給者説明会にあわせた制度説明会や国民年金保険料免除申請にかかる相談会等の開催
4. 「ねんきん月間」を活用し、多様な方法により公的年金制度の周知・広報を実施
5. 企業や団体の従業員等に対する年金制度説明会の開催
 - ・企業や団体等に対する制度説明会を通じて、電子申請やねんきんネット、制度改正事項等について、広く周知・広報する。
 - ・開催にあたっては、オンラインやDVDを活用し、対面型と非対面型の両立を図る。

(3) 教育機関を対象とした年金セミナー事業

中学生や高校生、大学生等の若い世代を対象に、公的年金の大切さを知り、制度への理解を深めていただくため、多様な年金セミナーを積極的に実施するとともに、効果的なアプローチを検討・実施する。

1. 年金セミナー開催に向けたアプローチ

- 教育関係機関に対し、中学校や高校での年金セミナー開催に向けた協力依頼を行う。
- 中学校、高校、大学、専門学校等に対し、リーフレットやセミナー動画（DVD）の送付、電話勧奨等のアプローチを積極的に行う。

2. オンラインを活用した年金セミナーの推進

- Web会議ツールを活用した非対面での年金セミナーの拡大を図る。
- 対面によるセミナー、非対面型セミナーの他、セミナー動画（DVD）の視聴など、各学校のニーズや環境に応じたセミナーを開催する。
- 実施後のアンケートや先生方のご意見をもとに、適宜、実施方法や教材の見直しを図る。
- セミナー講師育成のため、機構職員に対する研修を充実させる。

3. 地域年金推進員の活用

- 地域年金推進員が高校、大学、専門学校等を訪問し、リーフレットを活用した説明及び年金セミナー開催のアプローチを行う。
- 地域年金推進員との連絡会議を開催し、意見交換・情報共有を行う。

(4) 年金委員活動の活性化・委嘱拡大

年金委員は、地域や職場での制度周知・理解の促進に欠かせない存在であり、国民年金の納付率向上、無年金者・低年金者の防止に貢献していただく、いわば「地域や職場における機構職員」である。

年金制度に関する研修会や情報提供を充実させることより、年金委員活動の活性化とサポート体制の強化を図るとともに、年金委員の意義・やりがいをしっかりアピールし、委嘱拡大に取り組む。

1. 定期的な研修会・意見交換会の開催

- ・厚生労働省からの通知に基づき、制度改正事項や重点協力依頼事項を中心とした研修会・意見交換会を開催する。

2. 積極的な情報提供及び制度周知への協力依頼

- ・「年金委員活動のてびき」や情報誌「なごみ便り」を送付し活動を支援する。
- ・各種啓発資料（退職後の年金手続きガイド、アニュアルレポート等）を送付するなど、積極的に情報提供を行う。
- ・地域型年金委員及び職域型年金委員と連携し、地域住民及び企業の従業員への制度周知や情報提供を行い、併せて個人向けオンラインサービス（ねんきんネット）の利用促進を図る。

3. 委嘱数拡大に向けた取り組み

- ・職域型年金委員については、年金委員未設置事業所に推薦依頼文書を送付する。
- ・定年退職等による職域型年金委員の辞退者の際には、後任の推薦依頼を丁寧かつ確実にを行う。
- ・地域型年金委員については、推薦母体となる関係団体に対し、積極的に推薦依頼を行う。

(5) 「ねんきん月間」及び「年金の日」における取り組み

11月の「ねんきん月間」や11月30日の「年金の日」において、各年金事務所が創意工夫し、公的年金制度の普及・啓発活動を積極的に実施する。

1. 年金委員功労者表彰式の開催
2. 各年金事務所における公的年金制度の普及・啓発活動の実施
3. 「わたしと年金」エッセイ募集
 - ・教育機関や関係団体に対し広報及びアプローチを積極的に行い、応募数の増加を図るとともに、応募のあった教育機関に対し感謝状を贈呈するなど、次回応募に向けての取り組みを図る。

(6) 地域年金事業運営調整会議

地域、教育機関、企業の中での年金制度の周知・理解・支援のネットワークの強化並びに地域年金展開事業の推進を図るため、地域年金事業運営調整会議を開催する。